



Ovid a Wolters Kluwer business の病院向けパッケージ

設楽 真理子

I. はじめに

Ovid Technologies (以下Ovid社)は、Ovid Medline/Evidence-Based Medicine Reviews (以下EBM Reviews)など医学系コンテンツをCD-ROM Network および Internet 上で提供するデータベース・プロバイダであり、出版社の電子ジャーナルが試験段階であった1997年頃から自社の Online Platform (Ovid Web Gateway 以下 Ovid Online) 上に、さまざまな出版社の著名タイトルを搭載して提供する Aggregator としても知られてきました。

近年、親会社である Wolters Kluwer Health (以下 WKHealth) の戦略により、Ovid 社は WKHealth 傘下の主要出版社 Lippincott Williams & Wilkins (以下LWW)、Adis International, Fact & Comparisons などとの結びつきを強めており、特に LWW 発行のジャーナルや書籍については、コンテンツを所有する電子出版社としての「顔」も持つようになりました。

本稿では LWW 電子ジャーナルを中心に、WKHealth の Top Brands のひとつである Ovid 社の提供する「病院向け」の電子コンテンツ & サービスを横断的に紹介します。

II. 電子コンテンツ & サービスの紹介

1. LWW 電子ジャーナル

LWW の発行する学術雑誌は、医学・看護学および関連分野を中心とし、Ovid Online 上で電子的に出版されているタイトル (以下 LWW on Ovid) は約280を数えます。2003年にプリン

ト機関購読に対する電子ジャーナルの無償 Bundle (通称: LWW Online) を中止して以降、日本医学図書館協会・薬学図書館協議会および国立大学図書館協会への電子ジャーナル・コンソーシア提案 “LWW on Ovid Fixed 100/Fixed 50” の加入機関は着実に増加し、2007年には60機関に及んでいます。このうちプリントの購読を前提としない e-only 提案への加入は、この2年間に7機関と増加しており「プリントから電子ジャーナルへ」という利用者の意識の変化を着実に感じます。

LWW on Ovid の病院向け提案としては、2005年より試験的に「プリント購読料プラス15%」で、電子ジャーナルとプリントの両方を購読できる “Hospital Bundle” というサービスを行っています。このサービスは、大学付属病院をのぞく病院で利用できます。プリント版に固執される利用者の方々から、LWW on Ovid 導入への理解と支持を得るために、まずこの Hospital Bundle を利用されたケースは少なくありません。

2007年購読分からは、プリント購読の前提条件のない “LWW Hospital Fixed 10” パッケージの提供もはじまりました。病院の必須タイトルを厳選したこのパッケージは、American Journal of Surgical Pathology, Anesthesiology, Annals of Surgery, Circulation, Clinical Orthopaedics & Related Research, Laryngoscope, Neurology, Obstetrics & Gynecology, Stroke の10誌を割安にフルテキスト購読できるだけでなく、契約期間終了後の所有権も、契約期間中に利用可能であったバックファイルを含めて保証

されます。プレミア・タイトルにエンバゴ（出荷停止期間）の遅滞なく、プリント版未収録の記事も含めて、1日24時間・週7日医局からでも病棟からでもアクセスできる LWW on Ovid は「病院図書館」のデジタル化に欠かせないアイテムです（参考 URL ①）。

病院図書室の専用ホームページをお持ちでない場合に、利用可能な電子ジャーナルの統合アクセス・ポイントを提供するポータル・サービスも、Ovid Technologies Japan Office から提供されています。電子ジャーナルはアクセス方法が面倒となると、さっぱり利用してもらえないのが現状なので、とりあえず「ここにすれば、利用可能な電子コンテンツはすべてあります」という入口を用意するお手伝いを、ということ で立ち上げたサービスです。

2. LWW Hospital Collection（電子ブック・コレクション）

LWW の病院向けパッケージには、電子ブックのコレクションもあります。2006年には、病院向けに厳選された30タイトルの年間購読パッケージ“LWW Hospital Collection”が、リリースされました。このパッケージは、Oki's Pediatrics や Washington Manual Medical Therapeutics などの著名な教科書や、Griffith's 5 - Minute series を始めとする救急医療に役立つハンドブックなど、病院勤務に必携なタイトルが網羅されており、Ovid 上の電子ブック専用 Platform（以下 Books@Ovid）を通して利用します。Books@Ovid では、複数の電子ブックの同時検索が可能であり、文章をそのまま入力できる Natural Language 検索や、適合率順にスコアリングされた検索結果、目次のフレーム表示やハイライト機能など、電子ブックの特性を最大限に生かし、利用者の使い勝手を高める工夫がなされています。LWW の電子ブックは、毎年契約更新する「購読タイプ」に加え、「買い取りタイプ」の契約形態も提供するようになり、予算状況に合わせた購入が可能になりました（参考 URL ②）。

3. コンテンツとサービスの統合

LWW on Ovid の特徴は、LWW コンテンツの搭載されている Platform（Ovid Online）が、単に電子ジャーナルの閲覧を目的に開発されたものではなく、Ovid Medline をはじめとするデータベースの Platform を兼ねているところにあります。LWW on Ovid を1タイトルでも購読すると、フルテキスト購読契約誌以外の1,200誌以上の電子ジャーナルの目次・書誌事項・抄録までを提供する索引データベース Journals@Ovid も無償提供されます。この Journals@Ovid データベースあるいは Ovid Medline を、医学文献の所在を探す検索エンジンの中核として据えることにより、利用者は Ovid Platform の Linking Technologies を通して、Cochrane Systematic Reviews をはじめとする有償・無償のフルテキスト情報へ自在にナビゲートされます（参考 URL ③）。

Ovid 社では、購読電子ジャーナルリストを自動生成する Journal A to Z 機能の付属した Open URL リンク・リゾルバ“LinkSolver”もリリースしており、これらを活用することによって、電子コンテンツを同一の Platform から提供するだけではなく、図書館サービスのさまざまな側面（所蔵管理・ILL サービス・文献複写依頼など）を電子的に統合することが可能です。デジタル図書館としての発展を考える際には、将来的に検討すべきポイントとなるでしょう（参考 URL ④）。

4. Clinical Resource@Ovid—病院向けの新しい統合サービスの形

WKHealth は2006年に、臨床上のさまざまな課題に対し、短時間で答えを見出さなければならぬ臨床医や看護師が、「情報の海」に溺れることなく「選ばれた最適なコンテンツ」に、「Google のように簡単&迅速に」アクセスできる“Clinical Resource@Ovid”（以下 CR@Ovid）をリリースしました。CR@Ovid は、Evidence-Based な診断支援ガイドライン“Clin-eguide”、薬剤ハンドブックを主体とする電子ブック・コ

コレクションおよび Ovid Medline の基本セットから成り、外部 web サイトへのリンクを設定したり、薬剤相互作用や ICD-9 CM コードを使ったりする検索も可能です (参考 URL ⑤)。

例えば、図 1 は、Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS : 重症急性呼吸器症候群) という質問を、CR@Ovid に入力した結果として表示される Quick Hit 画面です。ここでは、Clin-eguide からは管理や診断方法のガイドラインが、電子ブックの 5 - Minute Consult Database などから、WHO や CDC のクライテリアから疾病の歴史、病理、疫学、診断、予防、治療方法まで、コンパクトにまとめられた情報が入手できます。さらに、この疾病の有効な治療方法に関する Cochrane Systematic Reveiws や ACP Journal Club など、Evidence-Based な Medical Articles もリストされています。また、電子ブックのなかでも薬剤ハンドブック (Med-Fact Patient Handout) からの情報は、Drug Information の欄に表示され、SARS の治療や診断に使われる薬剤の詳細情報を提供します。この Quick List 部分に表示されるのは、CR@Ovid 搭載コンテンツからヒットする何百ものデータ中、真っ先に参照すべき Top Ranking の情報になります。ここまで到達し、かつ必要な情報を一覧するのに要する時間は、ものの数分です。



図 1. CR@Ovid Quick Hits 画面

必要があれば、これらの Evidence となった文献を Ovid Medline のなかに見いだし、最終的に相当する原著論文や関連文献までクリック & クリックで入手することも可能です。

CR@Ovid は、選び抜かれたコンテンツを統合するだけでなく、それらから、臨床の現場で必要とされる最良の情報に最短時間で到達する手段を提供します。この膨大な数の研究情報とポイント・オブ・ケアの間を「橋渡し」する CR@Ovid の役割は高く評価され、New York 市の公立病院コンソーシアム HHC やアイルランドの看護師協会 N2N などひろく導入されています。

今回の検索例に使用した CR@Ovid は、図 2 に示されるように、基本セットに各国のガイドラインや Patient Handouts などのコンテンツを追加しています。EBM Reviews (Cochrane Systematic Reviews をはじめとする Cochrane Library のアウトプットおよび米国内科学会の EBM 情報源 ACP Journal Club を含む複合データベース) や、より多くの電子ブックなど、既に購読している Ovid 上のコンテンツとの統合を図ることもできます。今後は、MRI による 3D 解剖画像データベース Primal Pictures 3D Anatomy や LWW をはじめとする臨床系電子ジャーナルのコレクションなど搭載コンテンツの拡張が予定されています。

III. 結び

WKHealth のなかでも Ovid 社の属する Med-



図 2. CR@Ovid ログイン画面

ical Research 部門は Content in Context & Consultants という新しいモットーを提唱しています。これには、従来の Ovid 社のモットー Content + Tools + Services から一歩進んで「最良のコンテンツ (Contents) を、状況に応じて最良の形で提供する (in Context)」、つまり個々の利用者のワーク・フローやニーズの変化にまで焦点を合わせた製品を開発しよう、という意気込みが感じられます。臨床の現場である病院においては、WKHealth のさまざまな情報が、オーダ・セットや薬剤アラートに効果的に

組み込まれていくような形での提供を最終目的としています。電子カルテに代表される病院システムとの統合やそれを可能とする柔軟な API の開発など、Ovid 社と WKHealth の挑戦は続きます。

参考文献

角田亮子：病院図書室における EBM 関連ツール③ Wolters Kluwer Health の臨床情報源。ほすびたるらいぶらりあん。2006 ; 31 (3) : 246-8.

参考 URL

- ① LWW Hospital 10, http://www.ovid.jp/site/trial/products/LWW_hospital_10.html
- ② Ovid の電子ブック/Books@Ovid のご案内, http://www.ovid.jp/site/J0S/J@O_LWW.pdf
- ③ Journals@Ovid クイックガイド2007年1月, http://www.ovid.jp/site/J11c/QuickGuide_J@O.pdf
- ④ Ovidのe-Resource Management Solution-OpenURL リンク・リゾルバ&電子ジャーナル管理機能-, http://www.ovid.jp/site/ovid_J10/Ovid_LinkSolver.pdf
- ⑤ Clinical Resource@ovid, http://www.ovid.jp/site/trial/products/Clinical_Resource.html